

普及活動情勢報告（令和7年4月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

津野山地域の農業を考える ～第2回津野山地域営農連絡協議会全体会～



津野山地域の農業振興を協議する関係者ら

3月17日、JA高知県高西営農経済センター津野山経済課において、関係機関から19人の参加のもと、津野山地域営農連絡協議会全体会が開催されました。

協議会の実働部隊である5つのプロジェクトチームから本年度の活動実績の報告と次年度の行動計画（案）の提案が行われ、続いて農業改良普及課からは、農業振興の指針として策定した「津野山地域の農業」の紹介、「地域農業を支える仕組みの再構築」の検討提案を行いました。

参加者からは実績への評価と現場の課題を踏まえた活動への激励がありました。

農業改良普及課では、引き続き、津野山地域の農業振興のために関係機関と連携して課題解決に努めていきます。

さらなる所得向上を目指して ～JA土佐くろしおミョウガ出荷始め総会～



意見交換を行う生産者ら

3月31日、JA土佐くろしお販売部において、ミョウガ部会の出荷始め総会が開催され、生産者ら90人が参加しました。

農業改良普及課は、昨年と今年の外気温、日射量の比較の説明と、園芸用ハウス等リノベーション事業費補助金の周知を行いました。

生産者からは、リノベーション事業を活用して高温対策に取り組みたいという声がありました。

農業改良普及課は今後も関係機関と連携し、高温対策に関する試験や調査を行い、産地の生産力向上・安定化を目指します。

高品質な米の生産に向けて ～早期稲奨励品種決定調査現地調査を開始～



調査ほ場の設置状況を確認する普及指導員

3月31日、中土佐町上ノ加江で、水稻農家の協力のもと早期稲奨励品種決定調査現地調査を開始しました。

この調査は、高知県農業技術センターが有望と評価した品種について、県内各地域の気象条件及び標準的な栽培条件下での生育特性、生産量等を明らかにし、奨励品種及び普及可能な地域を決定することを目的に実施するもので、本年度は4品種を比較検討します。

今後は定期的な生育状況の確認と収量・品質調査を行い、調査結果は11月ごろに開催される集落営農組織代表者連絡会等で報告する予定です。

農業改良普及課は、今後も水稻の安定栽培技術の確立と普及推進に取り組んでいきます。

収量・品質の向上を目指して ～JA土佐くろしおミョウガ部会目慣らし会～



出荷規格の確認をする生産者ら

4月10日～17日に、JA土佐くろしおミョウガ部会が目慣らし会を須崎市大間などの出荷場で開催し、生産者のべ191人が参加しました。

生産者は出荷されたミョウガを用いて、出荷規格の確認と意見交換を行いました。農業改良普及課は、昨年と今年の外気温・日射量の推移と今月の栽培管理の注意点、夏期の夜間のヒートポンプ稼働について情報提供するとともに、SAWACHIの登録を推進しました。

生産者から「ヒートポンプ導入に活用できる事業はあるのか」という質問がありました。

農業改良普及課は今後も関係機関と連携し、巡回指導・調査研究を通じて、栽培管理技術の向上を支援していきます。

育て！未来の農業者 ～梶原高校・本年度の出前授業開催に向けて～



本年度の授業内容について協議する関係者ら

4月15日、津野山地域営農連絡協議会が、高知県立梶原高等学校での出前授業の開催に向けた打合せ会を開催し、梶原町、津野町、JA、梶原高校、農業改良普及課の関係者14人が参加しました。

農業改良普及課は、本年度の授業のプログラム案について提案し、参加者から、「農家にも授業に参画してもらってはどうか」、「生徒が農業に興味を持てるように授業を充実させよう」といった前向きな意見が出されました。

本年度も、同校の1年生と農業コース2年生を対象に、今まで以上に充実した出前授業の開催を予定しています。

女性や若者が就労しやすい環境改善に向けて ～須崎市認定農業者連絡協議会役員会～



意見を出し合う役員ら

4月17日に、須崎市総合保健福祉センターで須崎市認定農業者連絡協議会役員会が開催され、役員10人が参加し今年度の活動について話し合いが行われました。

5月開催予定の総会に向けて活動計画を協議し、農業改良普及課からは、家族経営協定の推進と農業就労環境整備事業費補助金の周知をすることとなりました。

役員は、補助金に関して関心が高く、「男女別にトイレを分けるよう更新するならできるか」、「外国人研修生でも対応できるか」などの質問が出されました。

農業改良普及課は総会での周知をとおして、女性や若者が就労しやすい環境改善の支援をしていきます。